

onelogin | Office 365

シンプルな、セキュリティで保護されたOffice 365の展開とユーザー管理

Office 365用OneLoginは、Active Directoryとシームレスにつながり、ユーザーに Web、Outlook、Lync、そしてモバイルメールクライアントへのシングルサインオンを提供するターンキーソリューションです。

複雑さを削除—ディレクトリ同期やADFSは不要

Office 365を高可用性サービスとして、月単位ではなく、分単位で立ち上げます。OneLoginは、どんな認証要求に対しても、Office 365 AzureテナントをOneLoginにより自動的に構成します。そのため、Office 365のアイデンティティプロバイダーになります。OneLoginの、数百万のOffice 365ユーザーおよび数千の組織単位(OU)にスケールアウトされる上位クラスのアーキテクチャのサポートに、専用のインフラストラクチャは必要ありません。

デスクトップ、Outlook、モバイル、そしてLyncにわたってシングルサインオン

OneLoginは、Microsoftの統合Windows認証を活用し、ユーザーが自身の企業ネットワークにログインしていれば、ユーザーをOneLoginに認証します。Windowsの認証情報を使用してサインインした社員は、デスクトップSSO(PCまたはMacから)を使用して、Office 365や他のアプリケーションにワンクリックでアクセスできます。また、Office 365用OneLoginは、Lync、Outlook、それにWindows Mobile、iPhone、Android、およびBlackberry用モバイルメールクライアントにもシームレスに接続されます。

SharePointへのシームレスなSSO

Highly customized SharePoint deployments often 高度にカスタマイズされたSharePointの展開には、往々にして、クラウドと、ファイアーウォール背後の両方に、単一の認証トークンの使用が必要となります。オンプレミスとクラウドサービスの同時認証を必要とするカスタムアプリケーションには、

OneLoginは、シームレスなシングルサインオンのエクスペリエンスのために、複数のハイブリッドアプリケーションにわたって、単一のサインオントークンを渡すことができます。

例外なく、Office 365と連携

オフィス内でも、外出先でも、エンドユーザーは、Webベース、リッチクライアントアプリケーション、それに電子メールリッチクライアントのすべてのクライアントにわたって、シームレスなシングルサインオンを体験できます。

リアルタイムなユーザープロビジョニングとライセンスペアリング

Office 365のライセンスは複雑です。OneLoginの自動ユーザープロビジョニングは、大規模なユーザーベースを、手動でユーザーを個別にアップデートする必要なく、Office 365のライセンスにペアリングすることを可能にします。OneLoginを使用して、Yammer、SharePoint、Microsoft Communications、Exchangeなどのライセンスオプションを自動的にプロビジョニングします。

グローバルなインフラストラクチャ、EUのホスティングオプション、そして99.99%のアップタイムを保証

計画ダウンタイムがなく、単一障害点もありません。すなわち、次のすべての階層に冗長性があります - DNS、データセンター、アプリケーションサーバー、およびデータベースサーバーまた、OneLoginは、データ所在地および準拠規格に適合する、EUホスティングオプションをユーザーに提供します。

全世界の2,000社以上の顧客がOneLoginを信頼

MFAおよびセキュリティポリシーによるセキュリティで保護されたアクセス

OneLoginのスマートフォン用ワンタイムパスワード(OTP)アプリを使用して、Office 365にセキュリティの追加レイヤーを付加すると、ボタンを押すだけでパスワードがアウトオブバンドで送信されます。MFAサーバーまたはハードトークンは必要ありません。また、

OneLoginには、SMSベースの2要素オプション、それに統合済みのGoogle Authenticator、DUO Security、RSAなどもあります。きめ細かいセキュリティポリシー管理により、IPアドレスによるOffice 365のアクセスを制限し、不明なブラウザーまたはネットワーク外からのアクセスには多要素認証を強制することが可能になります。そして、これらすべては、ユーザーごと、グループごと、またはグローバルベースで割り当てることができます。

上位クラスのアーキテクチャ

Office 365用OneLoginに必要なオンプレミスコンポーネントは、OneLogin Active Directory Connector (ADC)だけです。ADCは、ディレクトリ全体をスキャンするのではなく、変更通知をサブスクライブする、シンプルなWindowsサービスとしてインストールされます。Office 365ユーザーアップデートは数秒で表示され、専用サーバーは必要ありません。同じADCが、Office 365へのデスクトップSSOも可能にするため、ネットワークの複雑さはさらに最小限化されます。

ADからOffice 365へのアイデンティティフェデレーションのための高可用性モード

多くのユーザーは業務の大半をOffice 365で行い、ダウンタイムには容赦がありません。OneLogin ADCには、ユーザーが複数のコネクタを設定し、並行して実行することを可能にする、高可用性機能があります。一次ADCをホスティングするユーザーのサーバーがダウンした場合、二次コネクタの1台が自動的に一次に昇格します。重大な障害が発生し、Active Directoryの接続性が失われる場合は、OneLoginを、ユーザーのパスワードを使用可能な一番新しいハッシュと比較するように設定することができます。

複数フォレストトポロジと混合タイプの統合

Office 365用OneLoginは、複数フォレストトポロジ、および任意の数のActive DirectoryやLDAPインスタンス、それにWorkdayやGoogle Appsなどのようなクラウドディレクトリを含む混合タイプをサポートします。

OneLoginは、混合ディレクトリタイプを結合し、ユーザーをすべてのディレクトリに対して検証し、Office 365への適切なアクセスを付与して、統合されたメタディレクトリとして表示することができます。

セルフサービスパスワードリセット

ほとんどの企業には、定期的なパスワード変更を強制するセキュリティ要件があります。多くの場合、このような変更は、社員が、物理的に自分自身のオフィスのワークステーションの前にいる場合しか行えません。ユーザーパスワードの期限が切れると、OneLoginは、社員が自身のパスワードをクラウドから変更し、その変更をActive Directory、OneLoginポータル、それにOffice 365や、OneLoginによりセキュリティ保護される他のアプリにわたって同期させることを可能にします。

リアルタイムなプロビジョニング解除とコンプライアンスレポート

リアルタイムなOffice 365のプロビジョニングは、人が組織に加入する場合にも非常に便利ですが、組織を去る場合には絶対的に重要です。OneLoginを使用すれば、離職者をActive Directoryから削除することによって、Office 365へのユーザーアクセスをリアルタイムで即時無効にすることが可能であり、後でもう一度確認する必要はありません。Office 365は、IMAPのようなプロトコルを通して、バックドアアクセスを可能にする場合があるため、このことは重要です。ユーザーをすぐに無効にしない限り、不当なアクセスが発生する可能性があります。中でも、ワンクリックのレポートは、Office 365のユーザーがプロビジョニング解除され、コンプライアンスおよび監査要件を満足させていること検証します。

アナリストおよび顧客認識

FORRESTER®

FORRESTER WAVE (TM) の判定

「クラウドベースおよびオンプレミスのWeb アプリを広範に管理しようとしている顧客は、OneLogin を購入すべきだ」



SSO、CIAM、PAM、およびユーザープロビジョニングがガバナンスにおいて、2019年G2のリーダーおよびトップパフォーマンスに指名されました



2019年ガートナー「Peer Insights Customers' Choice for Access Management」として認定されました